



学校だより

<http://www.sumida.ed.jp/ryogokusho/>

令和8年2月27日

墨田区立両国小学校

墨田区両国4-26-6

TEL 3634-7876



弥生三月みつつのころ

校長 山崎 隆

両国小学校の子供たち、教職員、保護者の皆様、地域の皆様との新しい出会いから始まった令和7年度も、早いもので3月を迎えます。6年生は卒業に向けて小学校六年間のまとめに、1年生から5年生はそれぞれ次の学年に向けて各学年のまとめに取り組んでいます。教室を回って子供たちの学習の様子を見ると、それぞれの学年の学習を振り返って学習内容の定着を図っている授業の様子や、分からないことはそのままにせず自分で調べたり友達や教員に聞いたり確認したりする子供たちの姿を目にします。また、調べたり考えをまとめたり互いの考えや意見を共有したりする授業も展開されています。

さて、私は毎年3月になると思い出すことがあります。それは茶道の「みつつのころ」です。副校長時代に勤務した小学校には幼稚園が併設されていました。幼稚園では毎年3月にひな祭りのお茶会が行われ、園児に招かれて一緒にお抹茶をいただくのが楽しみでした。

ある年のお茶会で、茶道に通じた方から次のようなお話を伺いました。茶道では「みつつのころ」が大切で、お茶会で順番にお椀が置かれたらまず「お先にいただきます」、お茶をいただいたら「ごちそうさまでした」、そして最後に「大変結構でした」と心を込めてあいさつをするのだそうです。

ひとつめの「お先にいただきます」は、自分と他のお客様の存在を意識します。つまり相手意識です。日常生活においても「お先に失礼します」「お先にどうぞ」など日本には相手を気遣ったり思いやりするあいさつや言葉を使う習慣があります。これは日本人が大切にしてきたことで、他国に誇れる習慣です。

ふたつめの「ごちそうさまでした」は、自分のために湯を沸かし庭を掃き清め、茶室を飾り整えて一服のお茶を点ててくださる人に想いを巡らせることです。「ごちそうさま」は料理に関わった方々と料理の材料や素材の恵みに感謝の気持ちを表す意味もあります。

みつつめの「大変結構でした」は、お茶会に招いて心を込めてもてなしてくださった方への敬意を表すあいさつです。人を敬うことで自分勝手な振る舞いを恥じ、自分の行動を見つめ直すことにもなります。

「みつつのころ」は、どれも相手を意識し相手に感謝し相手に敬意を表すという、自分以外の他者に対することです。両国小学校の教育目標は、その一つに「心の温かい子ども」を掲げ、子供たち同士の関わりやつながりを大切に活動を進めています。また、今年度は開校150周年に関わる様々な行事や学習の場で、日頃から子供たちを温かく見守り学校を支えてくださる地域の皆様、保護者の皆様をはじめ両国小学校に関わる多くの皆様のお力添えをいただきました。これを機に、これからも学校・家庭・地域のつながりを大切に、力を合わせて子供たちを育てていかなければならないという思いを強くしています。子供たちが成長していく過程において出会った人との関わりはその一つ一つが大きな意味をもちます。たくさんの人と豊かな関係をつくることでその後の人生が豊かになります。子供たちには自分以外の人々の存在をしっかりと意識して相手に対する感謝や敬意を素直に表せる人に育ててほしいと願いつつ、大きな節目の年である今年度、皆様からたくさんのご理解とご協力をいただきましたことにあらためて感謝申し上げます。ありがとうございました。